

図2 三宅島 最近の火山活動の推移 (2000年1月～2007年10月)

③は、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。

④、⑤及び⑥は、地震の種類別 (図5参照) に計数を開始した2001年1月1日からのデータを掲載しています。

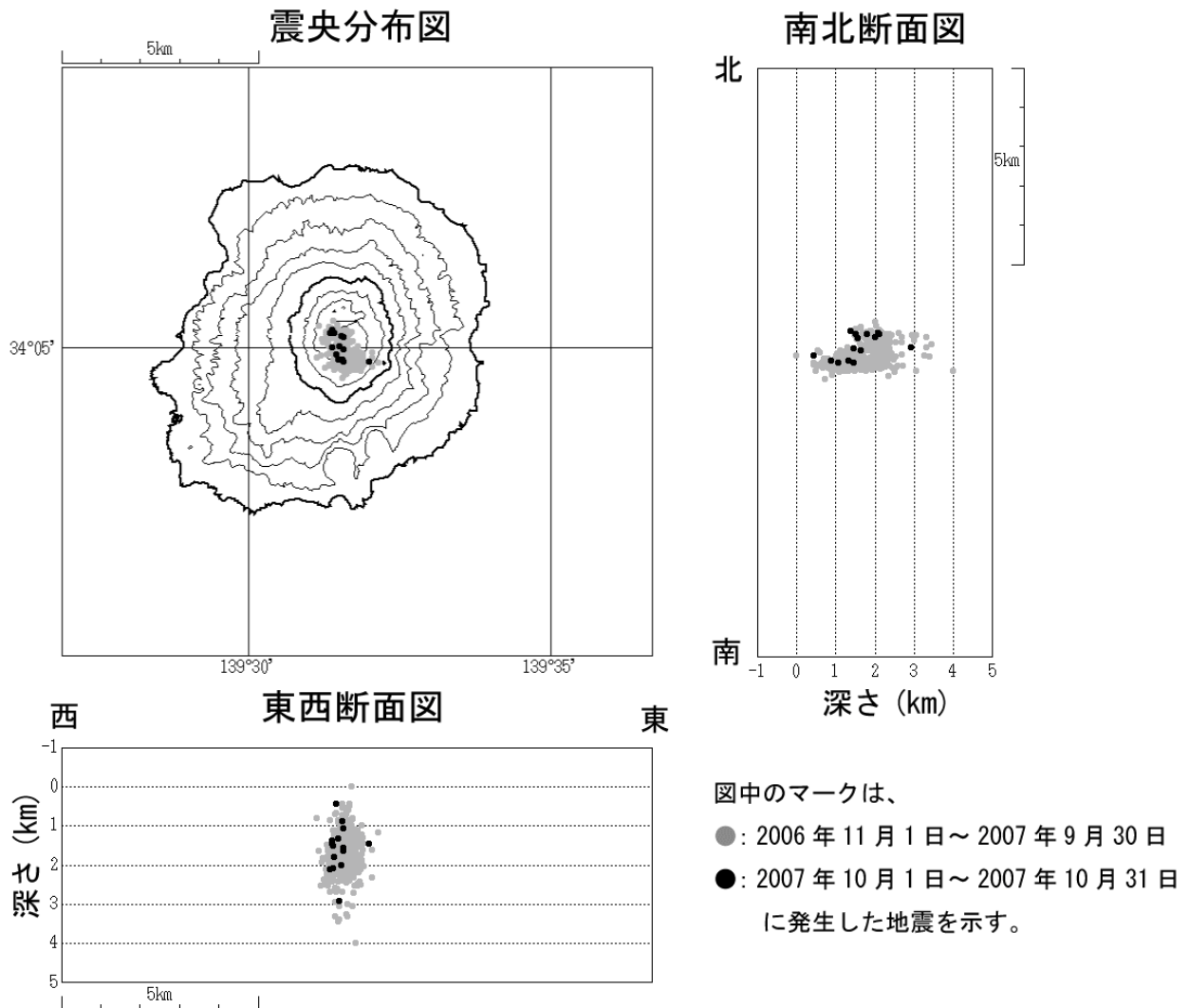


図3※ 三宅島 火山性地震の震源分布 (2006年11月1日～2007年10月31日)

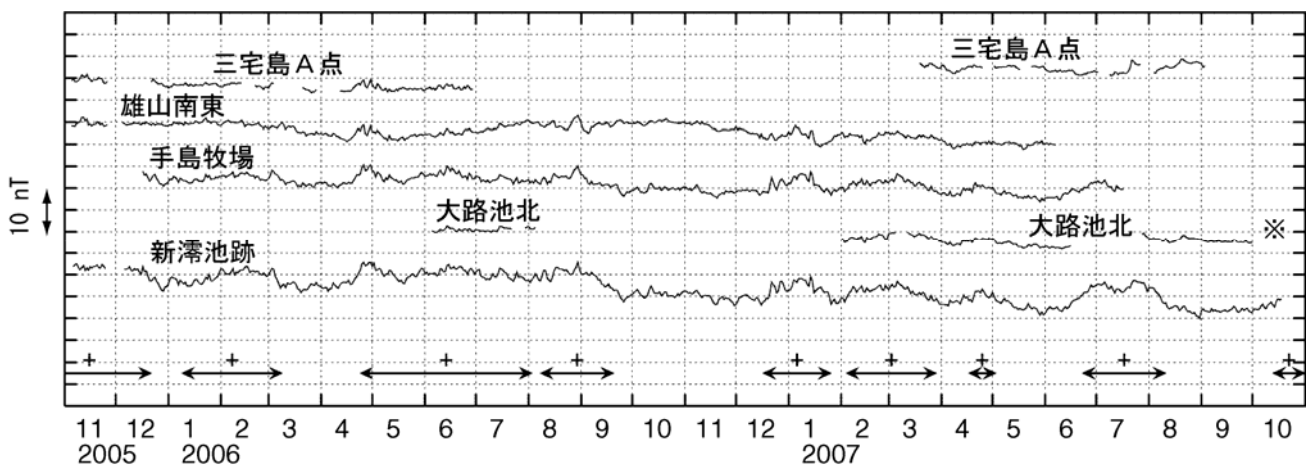


図4 三宅島 全磁力連続観測による全磁力値の変化 (2005年11月1日～2007年10月21日)

←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。

nT (ナノテスラ) は磁場の強さを表す単位です。

※: 大路池北においては、10月4日以降、人為的なノイズと考えられるため、暫定的に欠測とした。

表 1 三宅島 2007 年 10 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震回数 <sup>2)</sup>			微動回数	噴煙の状況 <sup>3)</sup>		備 考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震 (空振あり)		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	0	79	0	0	×	×	
2日	0	2	16	0	0	×	×	
3日	0	1	30	0	0	×	×	
4日	0	0	36	0	0	200	1	SO <sub>2</sub> 放出量 3,800~6,000 トン/日
5日	0	0	47	0	0	×	×	
6日	0	0	65	0	0	200	1	
7日	0	0	61	0	0	200	1	
8日	0	0	84	0	0	×	×	
9日	0	0	74	0	0	×	×	
10日	0	1	112	0	0	×	×	
11日	0	0	106	0	0	×	×	
12日	0	0	79	0	0	×	×	
13日	0	1	90	0	0	100	1	
14日	0	0	50	0	0	×	×	
15日	0	0	71	0	0	×	×	
16日	0	0	110	0	0	×	×	
17日	0	0	66	0	0	×	×	
18日	0	0	54	0	0	×	×	SO <sub>2</sub> 放出量 1,100~1,700 トン/日
19日	0	0	18	0	0	×	×	
20日	0	1	51	0	0	100	1	
21日	0	0	51	0	0	100	1	
22日	0	0	52	0	0	300	2	
23日	0	0	61	0	0	100	1	
24日	0	0	98	0	0	×	×	SO <sub>2</sub> 放出量 1,000~2,100 トン/日
25日	0	1	69	0	0	×	×	
26日	0	2	65	0	0	×	×	
27日	0	1	51	1	0	×	×	
28日	0	0	93	0	0	100	1	
29日	0	1	59	0	0	300	1	
30日	0	0	74	0	0	100	1	
31日	0	0	51	0	0	×	×	
合計	0	11	2023	1	0			

2) 火山性地震の計数基準はA点で最大振幅 8  $\mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 3 秒以内です。  
火山性地震の種類は以下のとおりです。

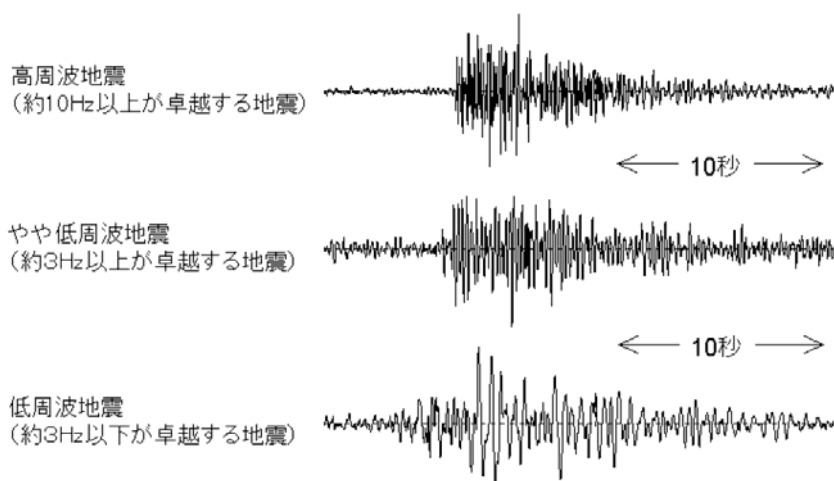


図 5 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

3) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・12時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。  
1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量  
7: 噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの  
-: 噴煙なし ×: 不明

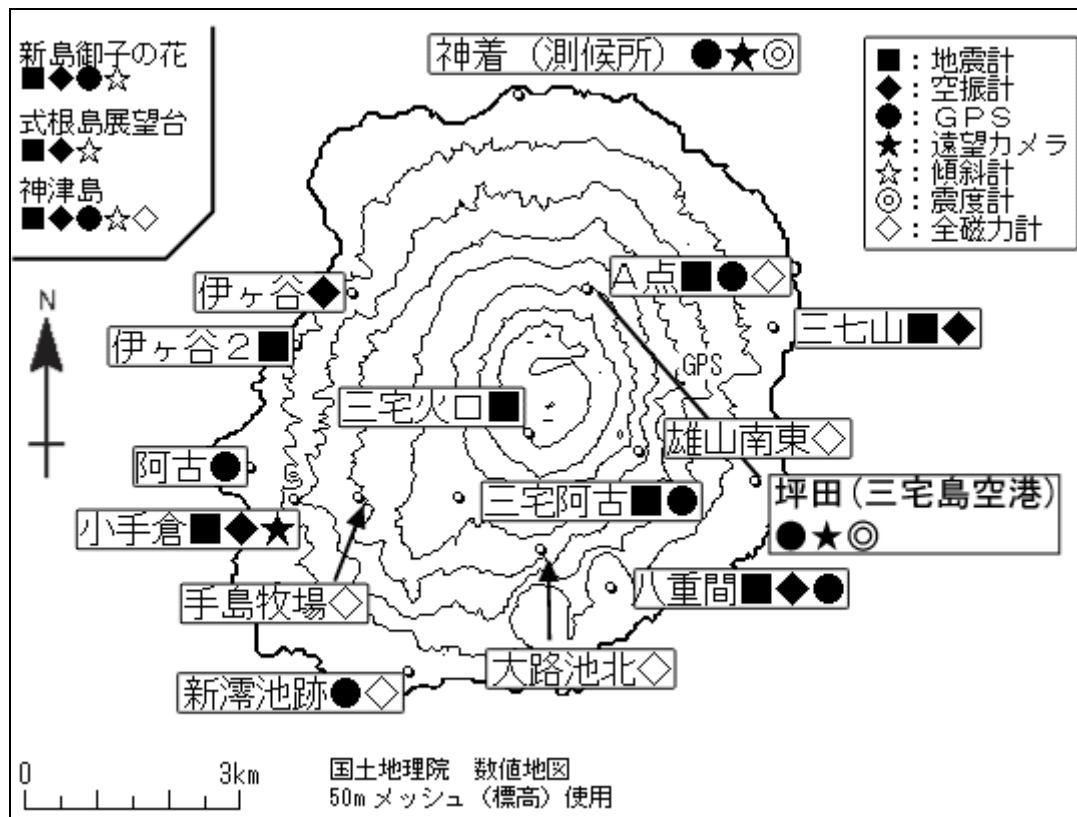


図 6 三宅島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）  
GPS 基線（A 点－坪田）は図 2 の⑦に対応しています。